

ナーバス

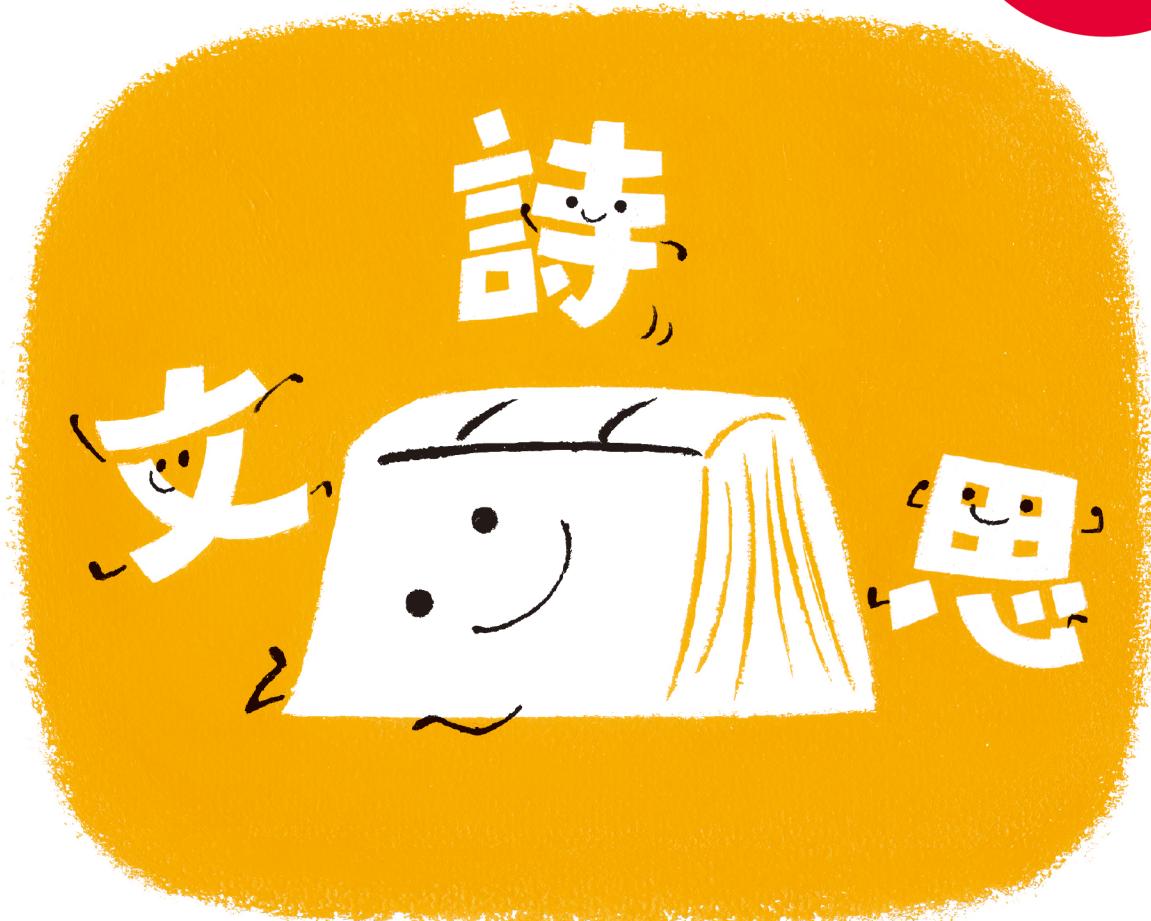
中学入試対策

国語

読解発展編

詩

文 思



長文・記述特訓 物語・小説の読解(2)

問題

A

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

（途中）

（字数指定のある問題は、句読点や「」などの記号も一字と数えます。）

SAMPLE

SAMPLE

(注) 車いすユーザー＝車いすを利用する人のこと。

ソプラノ＝女声の中で、最も高い声のこと。

アルト＝女声の中で、最も低い声のこと。

往生際の悪い＝あきらめが悪いこと。

機微＝表面からはわかりにくい微妙な事情などのこと。

敏くない＝感覚が鋭くないということ。

フットレスト＝車いすに設置されている足置きのこと。

ローファー＝学生が履くことの多い、靴ひものない革靴のこと。

俊足＝足が速いこと。中学生のころ、伊澄は陸上部に所属し、短距離のエースだった。

スロープ＝車いすで乗り降りしやすいように、ホーム・電車間の隙間や段差をなくすために設置される、取り外し可能な板のこと。

(1) 線① 「別に謝られることじゃないし、あれは俺が勝手にやつただけだから」とありますが、伊澄の言う「あれ」とは、どのようなことですか。三十字以上三十五字以内で説明しなさい。

(2) 線② 六花がやわらかい息をこぼした。／『ごめんね』とあります、

六花はどのようなことに対する謝つたのですか。「……に対する謝つた。」に
続くように、三十五字以上四十五字以内で説明しなさい。

(3) ——線③「私は、これを個性とは言わないでほしい」とあります。六花は、「個性」という言葉の使用自体を否定している訳ではありません。では、伊澄は、「個性」という言葉を使う際に六花はどうしてほしいと言いたかったのだと考えましたか。「……ほしいと言いたかったのだと考えた。」に続くよう、五十字以上六十字以内で説明しなさい。

（4）――線④「六花は目をまるくしたあと、ふわっと笑った。／百点のテストに花丸をつけるみたいに。」とあります。が、六花がこのような状態になつたのはなぜですか。九十字以上百十字以内で説明しなさい。

50

問題

B

次の文章を読んであとの問い合わせに答えなさい。

（字数指定のある問題は、句読点や「」などの記号も一字と数えます。）

（洗足学園中改）

SAMPLE

SAMPLE

(注)

三雲さん＝小学校時代から中学三年まで不登校だった生徒で、梨木とは小学校からの同級生。中学三年の十月、初めての教室で緊張している三雲さんに、梨木は夏服で登校したことを気にしているのだろうと思つて、自分なんか学ランの中はTシャツのままであると言つてその場を和ませ、三雲さんは緊張がほぐれた。この三雲さんが現在の河野さん。通信制の高校に通い、高校二年生の時、河野姓に変わる。梨木との連絡は数回程度だったが、大学進学を決める時、どうしても梨木と同じ大学に通いたいと強く思つていた。大学では明朗快活に過ごしている。

(1) 線①「とんでもないことをしてしまった」とあります、「香山」にとつては、どういうことが「とんでもないこと」にあたりますか。「……」と。」という形で説明しなさい。

(2) 線②「でもさ、梨木と走つてよかつた。」とあります、ここで「香山」と「梨木」は、お互いに感謝しています。それぞれの心情を、主体（誰がか）を明示して説明しなさい。文末は「……心情。」としなくてよい。

香山

梨木

(3)

——線③「ぼくはさ、中学三年生の時、他人の心が読める能力があるかもつて」とあります。そこで「梨木」が「香山」に語った内容をまとめたものとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人の心が読めることは、共に時間を重ねれば誰にでもある程度はできることなのに、普通で何の特徴もないことに悩んでいた梨木は、そんな当たり前のことを特別な力だと信じこませなければ進めないくらいに、何も持っていないといこんでいた。

イ 不登校だった三雲さんを助けた時、周りからエスパーだとはやし立てられたことがきっかけで、自分には人の心を読む力があると信じこんできた梨木は、特別な能力を持ちながらも、それらを真剣に認めてこなかつた家族に原因があると思つていた。

ウ 人の心を完全に読むことはできないが、当たりはずれはあるものがある程度はできるようになつていた梨木だったが、香山にとつての陸上のように、特別な力を信じて真剣に取り組もうとする強い意志を持つことはできず、終わつたことに悩んでいた。

エ 運動も勉強も普通で特徴がないことに悩んでいた梨木は、人の心が読めるという自分の特別な力を頼るあまり、相手が何を考えているのか、どんな気持ちでいるのかという、ごく普通の配慮に對しては何もしてこなかつたことを後悔していた。

(4) ——線④「香山の他意が含まれない笑顔は、見ているだけで胸のつかえを取つてくれる。」とあります。そこで、「梨木」の心情を説明しなさい。

文末は「……心情。」としなくてよい。

(5)

この文章の内容に合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 香山は、足の速かつた中学一年生の時、体育教師に目をかけられて厳しい陸上の練習をさせられ、耐えきれずに辞めてしまつて以後は、本気で走るのが怖くなつて周囲に気づかれない程度に流して走るようになつた。

イ 梨木は、他人の心を読むという自分の能力が周囲から認められたとき、三雲さんが初の登校で席に着きにくそうにしていた中学三年生のころを思い出してみたが、それもただの偶然かもしれないと考えるようになつた。

ウ 香山は、以前梨木が体育館で自分を励ましてくれて、それをきっかけにこれまで二回もマラソンを走れたことがとても特別なことに思えてきたので、やはり普通にすることで気づけることもある、と梨木を励ました。

エ 梨木は、香山の持つている陸上に関する経験のすべてが香山本人の特別なものであり、やはり自分には特徴がないと悩んでいたが、香山からはむしろ梨木こそ特別な存在だと言われ、悩みが解消されたように感じた。

弊社サンプルをご覧いただき、
ありがとうございました。



紙面サンプルは ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ見本[※]と目次をご覧いただけます。

※一部教材を除く

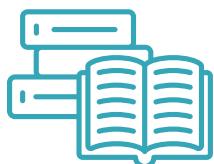
会員登録はこちら



Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

文理の教材紹介



デジタルサービスや
テストのお申込み



教育情報の発信



オンラインセミナー
のお知らせ

